雑 誌 投 稿 規 定

2018年5月19日改訂

1. 本誌の原稿は温泉医学，気候医学，物理医学ならびにそれと関連ある領域の原著，短報，総説，症例報告，欧文抄録紹介，Letter to the editor，その他とする．
2. 本誌への投稿は，原則として共著者も含め，本学会会員に限るが，例外として，本学会会員の推薦により，投稿料を支払うことで，会員以外でも投稿することができる．また，編集委員会が必要と認めた場合には，会員以外にも投稿を依頼することがある．
3. 原稿は和文または英文のいずれかとする．英文はすべてネイティブの校閲を受けて投稿すること．
4. ヒトを対象にした研究では，原則として所属機関の倫理委員会などの審査を受け，被験者の同意を取得した上で実施されたものでなければならない．動物を対象とした研究は，実験動物の管理及び利用に関して所属機関等の動物実験指針に準拠して実施されたものでなければならない．以上に該当する研究論文では，このことを方法の項に記載するものとする．研究するときに倫理審査機関がない場合，当学会の倫理委員会で事前に審査を受けること．
5. 1）臨床試験は，臨床試験登録公開制度システム（UMIN-CTR　http://www.umin.ac.jp/ctr/index-j.htm など）に登録すること．

   2）前向きのランダム化比較試験（randomized controlled trial: RCT）では，CONSORT 声明に準拠せねばならない．（参考資料として後頁に記載）

   注記：「投稿規定の変更前（2011年以前）の研究で規定5を満たしていない論文でも受理する．ただし，投稿時に研究開始時と終了時の年月日を記入すること．」

   3）コホート研究，ケース・コントロール，横断研究の3つの観察研究においては，原則として STROBE 声明チェックリストに準拠せねばならない．（参考資料として後頁に記載）
6. 利益相反に係わる事項がある際には，学会ホームページ掲載の本学会「COI 管理ガイドライン」に準拠し，その内容（実験薬の提供，資金提供など）及び COI 自己申告書を添付し，該当事項がない場合にはその旨を論文表紙に記載すること．
7. 掲載論文の著作権は本学会に帰属するが，本誌に掲載後，メディカルオンライン，電子ジャーナル J-STAGE 等にオンライン公開される．（申し出により，早期公開可能）
8. 投稿論文の掲載の採否は編集委員会が行う．査読により字句の訂正，削除，あるいは追加データを求めることがある．
9. 投稿論文は原則として通常広く使用される Word を用いて作成したものを，電子メールで編集委員会宛に送信する．Microsoft PowerPoint や Excel で作成した図やグラフは PDF 形式や画像ファイルに変換し写真等の作成形式は品質の高い編集可能なファイル形式（jpg など）で提供する．不鮮明なものや形式に合わないものは不採用，あるいは差し替えを求める．提出されたものは返却しない．

   〈投稿論文送付先・問合せ先〉

   〒113-0032　東京都文京区弥生 2-4-16
   学会センタービル
   一般財団法人 学会誌刊行センター内
   日本温泉気候物理医学会雑誌編集委員会
   Tel. 03-3817-5821　Fax. 03-3817-5830
   E-mail: onki-ed@capj.or.jp
10. 投稿原稿の構成

   投稿原稿は以下の順序で作成し，以下の(3)～(8)は下段欄外に通し番号を付ける．

   (1) 投稿依頼文：簡単な依頼文と共に，投稿の種類（原著，短報，Letter to the editor 等），筆頭者の所属名，所属所在地，電話・Fax・E-mail アドレス，氏名を明記する．投稿者は，希望する査読者候補3名以内とその連絡先（所属，電子メールアドレス）を，投稿時に編集委員会に知らせることができる．ただし，最終的な査読者の選定は編集委員会が行う．

   (2) 投稿承諾書：別紙に，投稿承諾書と表題を記し，下記の文に筆頭者が署名，捺印する．

   「下記の論文を日本温泉気候物理医学会雑誌（The Journal of Balneology, Climatology and Physical Medicine）に投稿いたします．また，共著者を含む全員が，本論文は他誌に掲載済み，あるいは掲載予定のものでないことを誓います．掲載後の本論文の著作権は日本温泉気候物理医学会に帰属するが，発表者もしくは発表者の所属機関に限り，掲載内容を自由に使用することができる．また，著者全員が本論文の内容に同意し，本学会誌に投稿することを承諾します．本論文についての法的，経済的，倫理的責任は著者に帰属することも承諾します．」

   筆頭著者の所属名，筆頭著者の氏名（署名，捺印），論文題目，共著者各人の所属名，氏名（署名，捺印），西暦　　年　月　日　提出．

   (3) 論文題目，著者と共著者の所属，氏名，連絡先（氏名，住所，電話，Fax，E-mail アドレス）

   (4) 抄録（和文800字，英文400 words 以内）と5個以内の和文あるいは英文 Key Words

   (5) 本文：和文は1行35字前後，A4 1ページ32行前後，英文は Double Space で作成する．また適切な見出し，あるいは項目番号を付け，大きい順

Presented by Medical*Online

にI，II……1. 2. ……1)，2) ……a)，b) ……とする．

(6) 引用文献：原著，短報では主要なもの30編以内とする．原則として雑誌は学術誌で査読システムのあるものとし，学会抄録は避ける．

(7) 和文論文の英文抄録：英文の題目，著者ローマ字名，英文所属，英文Abstract（400 words以内），5個以内の英文Key Words，Corresponding Author（ローマ字氏名，英文所属）

英文論文の和文抄録：和文の題目，著者名，所属名，和文抄録，キーワード，共著者各人（氏名，所属名，所属所在地），著者連絡先（氏名，所属名，所属所在地，電話，E-mailアドレス）

(8) 図表の説明

図表説明は別紙に記載し，和文論文も図表の表題，説明は全て英文で記述する．Fig. 1, 2, …… ，Table 1, 2, ……と明示して簡単なタイトルとそれで内容が理解できる説明を付ける．

11. 学術用語は和文，英文のいずれの場合でも，一般に認められた用語を用い，特殊な用語を避ける．なお，温泉気候物理医学関係の用語は，本学会の温泉気候物理医学用語集（ホームページ参照のこと）に準拠するものとする．

12. 文中の外国語の固有名詞，化学物質名は，原語で記す．ただし，和文の場合，日本語化したものはカタカナを用いる．外国語の文頭はすべて大文字，文章中では，固有名詞，薬品名及び独語の名詞を除きすべて小文字とする．

13. 数字は，アラビア算用数字を用い，単位はÅ，μm，mm，cm，m，mL，dL，L，ng，μg，mg，g，kg，ms，s（秒），min（分），h（時），など，できるだけ国際単位系に従う．

14. 組織，標本写真などカラー印刷を希望する場合には，投稿の際に指定する．

この場合，カラー製版代も別途請求される．

15. 日本温泉気候物理医学会雑誌の略記は，和文は日温気物医誌，英文略記は，J Balneol Climatol Phys Medとする．

16. 引用文献は，引用順に本文中の文書または著者名の右肩に番号・片括弧を付して，[1), 2)] ……のように記入し，本文末尾に引用順に下記要領で記載する．著者が5名以上のときははじめの3名まで記載し，あとは他，またはet al.と略す．

英文論文で和文の引用文献は，原則として英文抄録のある学術誌とし，英文抄録のないものや単行本のタイトル・誌名の英文表記には格段の注意を払い，末尾に（in Japanese）と明示する．

引用文献記載例：著者名，論文名，誌名，出版年，巻数，始めのページと終わりのページ．

単行本の場合のみページ数を表す「p」を入れる．

1) 大塚吉則，高山　茂，藪中宗之，他：トゴール鉱泥浴時の健常人皮膚温の変化．日温気物医誌　1997; 60: 69-74.

2) 大島良雄：温泉治療学総論．温泉医学（日本温泉気候物理医学会編），交通印刷株式会社，東京，1999; p3-9.

3) Noro H, Takayama S, Agishi Y: Effects of the stellate ganglion radiation by polarized light on the autonomic nervous system and electroencephalogram. J Jpn Soc Balneol Climatol Phys Med 1997; 60: 193-199.

4) Agishi Y, Otsuka Y, Watanabe I, et al: Present features of medical balneology in Japan. In: Recent Progress in Medical Balneology and Climatology, Agishi Y, Otsuka Y (eds), Kokoku Printing, Sapporo, 1995; p1-10.

17. 著者校正は初校時のみとし，誤植の訂正に留める．

18. 別刷は著者の希望により50部単位で作成し，その費用は送料も含む実費を著者の負担とする（別刷単価表参照）．総会一般講演抄録の別刷は作成しない．

19. 掲載料は当分の間，本誌刷り上がり4頁まで，短報は2頁まで本学会が負担し，超過した分1頁につき9,000円（税込）を徴する．ただし，図表・写真・カラー組版代，早期公開手数料などは実費を徴する．会員以外の著者，または共著者が含まれていれば，一人につき投稿料10,000円が，追加となる．

Presented by Medical*Online

カラーページは，別途，以下の料金表によりカラー・ページ・チャージを徴収する．

	単価（1ページあたり）	計
1ページ	40,000円	40,000円
2ページ	30,000円	60,000円
3ページ	25,000円	75,000円
4ページ	20,000円	80,000円

5ページ以上は，1ページあたり20,000円ずつ増加

別刷単価表

	50部		100部		150部		200部		250部		300部	
	表紙	本文	表紙	本文	表紙	本文	表紙	本文	表紙	本文	表紙	本文
2頁	2,500	2,500 5,000	3,200	3,700 6,900	4,000	5,000 9,000	5,000	6,000 11,000	5,800	6,800 12,600	6,200	7,400 13,600
4頁	2,500	3,300 5,800	3,200	5,100 8,300	4,000	6,800 10,800	5,000	8,150 13,150	5,800	8,800 14,600	6,200	9,800 16,000
6頁	2,500	4,300 6,800	3,200	6,500 9,700	4,000	8,600 12,600	5,000	10,300 15,300	5,800	11,100 16,900	6,200	12,200 18,400
8頁	2,500	5,300 7,800	3,200	7,800 11,000	4,000	10,400 14,400	5,000	12,300 17,300	5,800	13,300 19,100	6,200	14,600 20,800
10頁	2,500	6,100 8,600	3,200	9,100 12,300	4,000	12,200 16,200	5,000	14,300 19,300	5,800	15,500 21,300	6,200	17,000 23,200
12頁	2,500	6,800 9,300	3,200	10,400 13,600	4,000	13,900 17,900	5,000	16,200 21,200	5,800	17,600 23,400	6,200	19,400 25,600
14頁	2,500	7,500 10,000	3,200	11,700 14,900	4,000	15,500 19,500	5,000	18,000 23,000	5,800	19,700 25,500	6,200	21,800 28,000
16頁	2,500	8,200 10,700	3,200	12,900 16,100	4,000	17,100 21,100	5,000	19,700 24,700	5,800	21,700 27,500	6,200	24,100 30,300
18頁	2,500	8,900 11,400	3,200	14,100 17,300	4,000	18,600 22,600	5,000	21,300 26,300	5,800	23,700 29,500	6,200	26,400 32,600
20頁	2,500	9,600 12,100	3,200	15,100 18,300	4,000	19,900 23,900	5,000	22,800 27,800	5,800	25,600 31,400	6,200	28,700 34,900

※カラー頁1頁につき1部10円増し

Presented by Medical*Online

参考資料

表1　ランダム化比較試験を報告する際に含まれるべき情報のCONSORT 2010チェックリスト*
CONSORT 2010 checklist of information to include when reporting a randomized trial

章／トピック (Section/Topic)	項目番号 (Item No)	チェックリスト項目 (Checklist Item)	報告頁 (Reported on page No)
タイトル・抄録 (Title and Abstract)			
	1a	タイトルにランダム化比較試験であることを記載。	
	1b	試験デザイン(trial design)，方法(method)，結果(result)，結論(conclusion)の構造化抄録(詳細は「雑誌および会議録でのランダム化試験の抄録に対するCONSORT声明」[1),2)]を参照)。	
はじめに (Introduction)			
背景・目的 (Background and Objective)	2a	科学的背景と論拠(rationale)の説明。	
	2b	特定の目的または仮説(hypothesis)。	
方法 (Method)			
試験デザイン (Trial Design)	3a	試験デザインの記述(並行群間，要因分析など)，割付け比を含む。	
	3b	試験開始後の方法上の重要な変更(適格基準 eligibility criteria など)とその理由。	
参加者 (Participant)	4a	参加者の適格基準(eligibility criteria)。	
	4b	データが収集されたセッティング(setting)と場所。	
介入 (Intervention)	5	再現可能となるような詳細な各群の介入。実際にいつどのように実施されたかを含む。	
アウトカム (Outcome)	6a	事前に特定され明確に定義された主要・副次的アウトカム評価項目。いつどのように評価されたかを含む。	
	6b	試験開始後のアウトカムの変更とその理由。	
症例数 (Sample size)	7a	どのように目標症例数が決められたか。	
	7b	あてはまる場合には，中間解析と中止基準の説明。	
ランダム化 (Randomization)			
順番の作成 (Sequence generation)	8a	割振り(allocation)順番を作成(generate)した方法。	
	8b	割振りのタイプ：制限の詳細(ブロック化，ブロックサイズなど)。	
割振りの隠蔵機構 (Allocation concealment mechanism)	9	ランダム割振り順番の実施に用いられた機構(番号付き容器など)，各群の割付けが終了するまで割振り順番が隠蔵されていたかどうかの記述。	
実施 (Implementation)	10	誰が割振り順番を作成したか，誰が参加者を組入れ(enrollment)たか，誰が参加者を各群に割付けた(assign)か。	
ブラインディング (Blinding)	11a	ブラインド化されていた場合，介入に割付け後，誰がどのようにブラインドかされていたか(参加者，介入実施者，アウトカムの評価者など)。	
	11b	関連する場合，介入の類似性の記述。	
統計学的手法 (Statistical method)	12a	主要・副次的アウトカムの群間比較に用いられた統計学的手法。	
	12b	サブグループ解析や調整解析のような追加的解析の手法。	
結果 (Results)			
参加者の流れ (Participant flow)	13a	各群について，ランダム割付けされた人数，意図された治療を受けた人数，主要アウトカムの解析に用いられた人数の記述。	
(フローチャートを強く推奨)	13b	各群について，追跡不能例とランダム化後の除外例を理由とともに記述。	
募集 (Recruitment)	14a	参加者の募集期間と追跡期間を特定する日付。	
	14b	試験が終了または中止した理由。	
ベースライン・データ (Baseline data)	15	各群のベースラインにおける人口統計学的(demographic)，臨床的な特性を示す表。	
解析された人数 (Number analyzed)	16	各群について，各解析における参加者数(分母)，解析が元の割付け群によるものであるか。	
アウトカムと推定 (Outcome and estimation)	17a	主要・副次的アウトカムのそれぞれについて，各群の結果，介入のエフェクト・サイズの推定とその精度(95%信頼区間など)。	
	17b	2項アウトカムについては，絶対エフェクト・サイズと相対エフェクト・サイズの両方を記載することが推奨される。	
補助的解析 (Ancillary analysis)	18	サブグループ解析や調整解析を含む，実施した他の解析の結果。事前に特定された解析と探索的解析を区別する。	
害 (Harm)	19	各群のすべての重要な害(harm)または意図しない効果(詳細は「ランダム化試験における害のよりよい報告：CONSORT声明の拡張」[3)]を参照)。	
考察 (Discussion)			
限界 (Limitation)	20	試験の限界，可能性のあるバイアスや精度低下の原因，関連する場合は解析の多重性の原因を記載。	
一般化可能 (Generalisability)	21	試験結果の一般化可能性(外的妥当性，適用性)。	
解釈 (Interpretation)	22	結果の解釈，有益性と有害性のバランス，他の関連するエビデンス。	
その他の情報 (Other information)			
登録 (Registration)	23	登録番号と試験登録名。	
プロトコール (Protocol)	24	可能であれば，完全なプロトコールの入手方法。	
資金提供者 (Funding)	25	資金提供者と他の支援者(薬剤の供給者など)，資金提供者の役割。	

＊本声明は，各項目についての重要な解説を記載したCONSORT 2010解説と詳細[4)]とともに用いることを強く推奨する．クラスターランダム化比較試験[5)]，非劣性・同等性試験[6)]，非薬理学的治療[7)]，ハーブ療法[8)]，実用的試験[9)]については，CONSORT声明拡張版を推奨する．そのほかの拡張版も近日発表予定（それらと本チェックリスト関連の最新情報はwww.consort-statement.orgを参照）．

Presented by Medical*Online

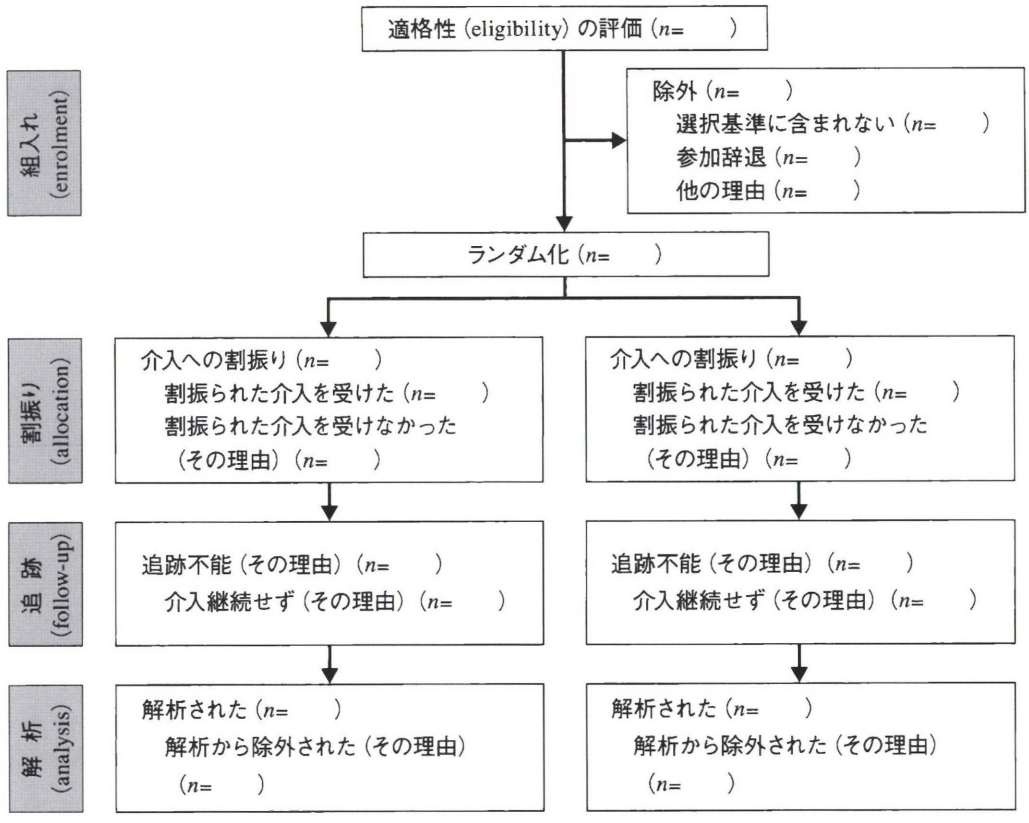

図1　2群間並行ランダム化比較試験の各段階の過程を示すフローチャート（組入れ，介入への割振り，追跡，データ解析）
Flow diagram of the progress through the phases of a parallel randomized trial of two groups (that is, enrolment, intervention allocation, follow-up, and data analysis)

参考文献

1) Hopewell S, Clarke M, Moher D, Wager E, Middleton P, Altman DG, et al. CONSORT for reporting randomised trials in journal and conference abstracts. *Lancet*. 2008; 371: 281-3.
［日本語訳：中山健夫，訳．雑誌および会議録でのランダム化試験報告の抄録に関するCONSORT声明．In：中山健夫，津谷喜一郎編著，臨床研究と疫学研究のための国際ルール集．ライフサイエンス出版，2008，p. 147-9.］

2) Hopewell S, Clarke M, Moher D, Wager E, Middleton P, Altman DG, et al. CONSORT for reporting randomized controlled trials in journal and conference abstracts: explanation and elaboration. *PLoS Med*. 2008; 5: e20.

3) Ioannidis JP, Evans SJ, Gøtzsche PC, O'Neill RT, Altman DG, Schulz K, et al. Better reporting of harms in randomized trials: an extension of the CONSORT statement. *Ann Intern Med*. 2004; 141: 781-8.［日本語訳：八重ゆかり，訳，大橋靖雄，監訳．ランダム化試験における害（harm）のよりよい報告：CONSORT声明の拡張．In：中山健夫，津谷喜一郎編著．臨床研究と疫学研究のための国際ルール集．ライフサイエンス出版，2008，p. 118-34.］

4) Moher D, Hopewell S, Schulz KF, Montori V, Gøtzsche PC, Devereaux PJ, et al. CONSORT 2010 Explanation and Elaboration: updated guidelines for reporting parallel group randomised trials. *BMJ*. 2010; 340: c869.

5) Campbell MK, Elbourne DR, Altman DG. CONSORT statement: extension to cluster randomised trials. *BMJ*. 2004; 328: 702-8.［日本語訳：津富宏，訳，津谷喜一郎，監訳．CONSORT声明：クラスターランダム化試験への拡張．In：中山健夫，津谷喜一郎編著．臨床研究と疫学研究のための国際ルール集．ライフサイエンス出版，2008，p. 105-17.］

6) Piaggio G, Elbourne DR, Altman DG, Pocock SJ, Evans SJ. Reporting of noninferiority and equivalence randomized trials: an extension of the CONSORT statement. *JAMA*. 2006; 295: 1152-60.［解説：森川敏彦，津谷喜一郎．CONSORT声明の拡張版：「非劣性および同等生ランダム化試験の報告」に関する解説．In：中山健夫，津谷喜一郎編著．臨床研究と疫学研究のための国際ルール集．ライフサイエンス出版，2008，p. 135-46.］

7) Boutron I, Moher D, Altman DG, Schulz KF, Ravaud P. Extending the CONSORT statement to randomized

Presented by Medical*Online

trials of nonpharmacologic treatment: explanation and elaboration. *Ann Intern Med*. 2008; 148: 295-309.

8) Gagnier JJ, Boon H, Rochon P, Moher D, Barnes J, Bombardier C. Reporting randomized, controlled trials of herbal interventions: an elaborated CONSORT statement. *Ann Intern Med*. 2006; 144: 364-7.［日本語訳：岡部哲郎，津谷喜一郎，訳．ハーブ介入のランダム化比較試験報告：詳細なCONSORT声明．In：中山健夫，津谷喜一郎編著．臨床研究と疫学研究のための国際ルール集．ライフサイエンス出版，2008，p. 156-63.］

9) Zwarenstein M, Treweek S, Gagnier JJ, Altman DG, Tunis S, Haynes B, et al. Improving the reporting of pragmatic trials: an extension of the CONSORT statement. *BMJ*. 2008; 337: a2390.

10) Schulz KF, Altman DG, Moher D, CONSORT Group: CONSORT 2010 statement: updated guidelines for reporting parallel group randomized trials. *BMJ*. 2010; 340: 697-702.［日本語訳：津谷喜一郎，元雄良治，中山健夫．CONSORT 2010声明　ランダム化並行群間比較試験報告のための最新版ガイドライン．薬理と治療 2010; 38(11)：939-947.］

Presented by Medical*Online

表２　STROBE 声明：「コホート研究」の報告において記載すべき項目のチェックリスト（訳：上岡洋晴，中山健夫，津谷喜一郎）

	No	推奨	報告頁
タイトル・抄録［title and abstract］	1	(a) タイトルまたは抄録のなかで，試験デザインを一般的に用いられる用語で明示する。 (b) 抄録では，研究で行われたことと明らかにされたことについて，十分な情報を含み，かつバランスのよい要約を記載する。	
はじめに［introduction］			
背景［background］/論拠［rationale］	2	研究の科学的な背景と論拠を説明する。	
目的［objective］	3	特定の仮説を含む目的を明記する。	
方法［methods］			
研究デザイン［study design］	4	研究デザインの重要な要素を論文のはじめの［early］部分で示す。	
セッティング［setting］	5	セッティング，実施場所のほか，基準となる日付については，登録，曝露［exposure］，追跡，データ収集の期間を含めて明記する。	
参加者［participant］	6	(a) 適格基準［eligibility criteria］，参加者の母集団［sources］，選定方法を明記する。追跡の方法についても記述する。 (b) マッチング研究［matched study］の場合，マッチングの基準，曝露群［exposed］と非曝露群［unexposed］の各人数を記載する。	
変数［variable］	7	すべてのアウトカム，曝露，予測因子［predictor］,潜在的交絡因子［potential confounder］，潜在的な効果修飾因子［effect modifier］を明確に定義する。該当する場合は，診断方法を示す。	
データ源［data source］/測定方法［measurement］	8*	関連する各因子に対して，データ源，測定・評価方法の詳細を示す。二つ以上の群がある場合は，測定方法の比較可能性［comparability］を明記する。	
バイアス［bias］	9	潜在的なバイアス源に対応するためにとられた措置があればすべて示す。	
研究サイズ［study size］	10	研究サイズ［訳者注：観察対象者数］がどのように算出されたかを説明する。	
量的変数［quantitative variable］	11	量的変数の分析方法を説明する。該当する場合は，どのグルーピング［grouping］がなぜ選ばれたかを記載する。	
統計・分析方法［statistical method］	12	(a) 交絡因子の調整に用いた方法を含め，すべての統計学的方法を示す。 (b) サブグループと相互作用［interaction］の検討に用いたすべての方法を示 (c) す。 (d) 欠損データ［missing data］をどのように扱ったかを説明する。該当する場合は，脱落例［loss to follow-up］をどのように扱ったかを説 (e) 明する。あらゆる感度分析［sensitivity analysis］の方法を示す。	
結果［result］			
参加者［participant］	13*	(a) 研究の各段階における人数を示す（例：潜在的な適格［eligible］者数，適格性が調査された数，適格と確認された数，研究に組入れられた数，フォローアップを完了した数，分析された数）。 (b) 各段階での非参加者の理由を示す。 (c) フローチャートによる記載を考慮する。	
記述的データ［descriptive data］	14*	(a) 参加者の特徴（例：人口統計学的，臨床的，社会学的特徴）と曝露や潜在的交絡因子の情報を示す。 (b) それぞれの変数について，データが欠損した参加者数を記載する。 (c) コホート研究：追跡期間を平均および合計で要約する。	
アウトカムデータ［outcome data］	15*	アウトカム事象の発生数や集約尺度［summary measure］の数値を経時的に示す。	
おもな結果［main result］	16	(a) 調整前［unadjust］の推定値と，該当する場合は交絡因子での調整後の推定値，そしてそれらの精度（例：95%信頼区間）を記述する。どの交絡因子が，なぜ調整されたかを明確にする。 (b) 連続変数［continuous variable］がカテゴリー化されているときは，カテゴリー境界［category bordary］を報告する。 (c) 意味のある［relevant］場合は，相対リスク［relative risk］を，意味を持つ期間の絶対リスク［absolute risk］の換算することを考慮する。	
他の解析［other analysis］	17	その他に行われたすべての分析（例：サブグループと相互作用の解析や感度分析）の結果を報告する。	
考察［discussion］			
鍵となる結果［key result］	18	研究目的に関しての鍵となる結果を要約する。	
限界［limitation］	19	潜在的なバイアスや精度の問題を考慮して，研究の限界を議論する。潜在的バイアスの方向性と大きさを議論する。	
解釈［interpretation］	20	目的，限界，解析の多重性［multiplicity］，同様の研究で得られた結果やその他の関連するエビデンスを考慮し，慎重で総合的な結果の解釈を記載する。	
一般化可能性［generalisability］	21	研究結果の一般化可能性（外的妥当性［external validity］）を議論する。	
その他の情報［other information］			
研究の財源［funding］	22	研究の資金源，本研究における資金提供者［funder］の役割を示す。該当する場合には，現在の研究の元となる研究［original study］についても同様に示す。	

*曝露群と非曝露群に分けて記述する。

Presented by Medical*Online

表３　STROBE 声明：「ケース・コントロール研究」の報告において記載すべき項目のチェックリスト（上岡洋晴，中山健夫，津谷喜一郎）

	No	推奨	報告頁
タイトル・抄録［title and abstract］	1	(a) タイトルまたは抄録のなかで，試験デザインを一般的に用いられる用語で明示する。 (b) 抄録では，研究で行われたことと明らかにされたことについて，十分な情報を含み，かつバランスのよい要約を記載する。	
はじめに［introduction］ 背景［background］／論拠［rationale］	2	研究の科学的な背景と論拠を説明する。	
目的［objective］	3	特定の仮説を含む目的を明記する。	
方法［methods］ 研究デザイン［study design］	4	研究デザインの重要な要素を論文のはじめの［early］部分で示す。	
セッティング［setting］	5	セッティング，実施場所のほか，基準となる日付については，登録，曝露［exposure］，追跡，データ収集の期間を含めて明記する。	
参加者［participant］	6	(a) 適格基準，参加者の母集団，ケース［case］の確定方法とコントロール［control］の選択方法を示す。ケースとコントロールの選択における論拠を示す。 (b) マッチング研究［matched study］の場合，マッチングの基準，ケースあたりのコントロールの人数を記載する。	
変数［variable］	7	すべてのアウトカム，曝露，予測因子［predictor］,潜在的交絡因子［potential confounder］，潜在的な効果修飾因子［effect modifier］を明確に定義する。該当する場合は，診断方法を示す。	
データ源［data source］／測定方法［measurement］	8*	関連する各因子に対して，データ源，測定・評価方法の詳細を示す。二つ以上の群がある場合は，測定方法の比較可能性［comparability］を明記する。	
バイアス［bias］	9	潜在的なバイアス源に対応するためにとられた措置があればすべて示す。	
研究サイズ［study size］	10	研究サイズ［訳者注：観察対象者数］がどのように算出されたかを説明する。	
量的変数［quantitative variable］	11	量的変数の分析方法を説明する。該当する場合は，どのグルーピング［grouping］がなぜ選ばれたかを記載する。	
統計・分析方法［statistical method］	12	(a) 交絡因子の調整に用いた方法を含め，すべての統計学的方法を示す。 (b) サブグループと相互作用［interaction］の検討に用いたすべての方法を示 (c) す。 (d) 欠損データ［missing data］をどのように扱ったかを説明する。 該当する場合は，ケースとコントロールのマッチングをどのように行った (e) かを説明する。 あらゆる感度分析［sensitivity analysis］の方法を示す。	
結果［result］ 参加者［participant］	13*	(a) 研究の各段階における人数を示す（例：潜在的な適格［eligible］者数，適格性が調査された数，適格と確認された数，研究に組入れられた数，フォローアップを完了した数，分析された数）。 (b) 各段階での非参加者の理由を示す。 (c) フローチャートによる記載を考慮する。	
記述的データ［descriptive data］	14*	(a) 参加者の特徴（例：人口統計学的，臨床的，社会学的特徴）と曝露や潜在的交絡因子の情報を示す。 (b) それぞれの変数について，データが欠損した参加者数を記載する。	
アウトカムデータ［outcome data］	15*	各曝露カテゴリー内の数，または曝露の集約尺度を示す。	
おもな結果［main result］	16	(a) 調整前［unadjust］の推定値と，該当する場合は交絡因子での調整後の推定値，そしてそれらの精度（例：95%信頼区間）を記述する。 どの交絡因子が，なぜ調整されたかを明確にする。 (b) 連続変数［continuous variable］がカテゴリー化されているときは，カテゴリー境界［category bordary］を報告する。 (c) 意味のある［relevant］場合は，相対リスク［relative risk］を，意味を持つ期間の絶対リスク［absolute risk］の換算することを考慮する。	
他の解析［other analysis］	17	その他に行われたすべての分析（例：サブグループと相互作用の解析や感度分析）の結果を報告する。	
考察［discussion］ 鍵となる結果［key result］	18	研究目的に関しての鍵となる結果を要約する。	
限界［limitation］	19	潜在的なバイアスや精度の問題を考慮して，研究の限界を議論する。潜在的バイアスの方向性と大きさを議論する。	
解釈［interpretation］	20	目的，限界，解析の多重性［multiplicity］，同様の研究で得られた結果やその他の関連するエビデンスを考慮し，慎重で総合的な結果の解釈を記載する。	
一般化可能性［generalisability］	21	研究結果の一般化可能性（外的妥当性［external validity］）を議論する。	
その他の情報［other information］ 研究の財源［funding］	22	研究の資金源，本研究における資金提供者［funder］の役割を示す。該当する場合には，現在の研究の元となる研究［original study］についても同様に示す。	

*ケースとコントロールに分けて記述する。

Presented by Medical*Online

表 4　STROBE 声明：「横断研究」の報告において記載すべき項目のチェックリスト（訳：上岡洋晴，中山健夫，津谷喜一郎）

	No	推奨	報告頁
タイトル・抄録［title and abstract］	1	（a）タイトルまたは抄録のなかで，試験デザインを一般的に用いられる用語で明示する。 （b）抄録では，研究で行われたことと明らかにされたことについて，十分な情報を含み，かつバランスのよい要約を記載する。	
はじめに［introduction］			
背景［background］／論拠［rationale］	2	研究の科学的な背景と論拠を説明する。	
目的［objective］	3	特定の仮説を含む目的を明記する。	
方法［methods］			
研究デザイン［study design］	4	研究デザインの重要な要素を論文のはじめの［early］部分で示す。	
セッティング［setting］	5	セッティング，実施場所のほか，基準となる日付については，登録，曝露［exposure］，追跡，データ収集の期間を含めて明記する。	
参加者［participant］	6	（a）適格基準，参加者の母集団，選択方法を示す。	
変数［variable］	7	すべてのアウトカム，曝露，予測因子［predictor］,潜在的交絡因子［potential confounder］，潜在的な効果修飾因子［effect modifier］を明確に定義する。該当する場合は，診断方法を示す。	
データ源［data source］／測定方法［measurement］	8*	関連する各因子に対して，データ源，測定・評価方法の詳細を示す。二つ以上の群がある場合は，測定方法の比較可能性［comparability］を明記する。	
バイアス［bias］	9	潜在的なバイアス源に対応するためにとられた措置があればすべて示す。	
研究サイズ［study size］	10	研究サイズ［訳者注：観察対象者数］がどのように算出されたかを説明する。	
量的変数［quantitative variable］	11	量的変数の分析方法を説明する。該当する場合は，どのグルーピング［grouping］がなぜ選ばれたかを記載する。	
統計・分析方法［statistical method］	12	（a）交絡因子の調整に用いた方法を含め，すべての統計学的方法を示す。 （b）サブグループと相互作用［interaction］の検討に用いたすべての方法を示 （c）す。 （d）欠損データ［missing data］をどのように扱ったかを説明する。該当する場合は，サンプリング方式［sampling strategy］を考慮した分析 （e）法について記述する。あらゆる感度分析［sensitivity analysis］の方法を示す。	
結果［result］			
参加者［participant］	13*	（a）研究の各段階における人数を示す（例：潜在的な適格［eligible］者数，適格性が調査された数，適格と確認された数，研究に組入れられた数，フォローアップを完了した数，分析された数）。 （b）各段階での非参加者の理由を示す。 （c）フローチャートによる記載を考慮する。	
記述的データ［descriptive data］	14*	（a）参加者の特徴（例：人口統計学的，臨床的，社会学的特徴）と曝露や潜在的交絡因子の情報を示す。 （b）それぞれの変数について，データが欠損した参加者数を記載する。	
アウトカムデータ［outcome data］	15*	アウトカム事象の発生数または集約尺度を示す。	
おもな結果［main result］	16	（a）調整前［unadjust］の推定値と，該当する場合は交絡因子での調整後の推定値，そしてそれらの精度（例：95%信頼区間）を記述する。どの交絡因子が，なぜ調整されたかを明確にする。 （b）連続変数［continuous variable］がカテゴリー化されているときは，カテゴリー境界［category bordary］を報告する。 （c）意味のある［relevant］場合は，相対リスク［relative risk］を，意味を持つ期間の絶対リスク［absolute risk］の換算することを考慮する。	
他の解析［other analysis］	17	その他に行われたすべての分析（例：サブグループと相互作用の解析や感度分析）の結果を報告する。	
考察［discussion］			
鍵となる結果［key result］	18	研究目的に関しての鍵となる結果を要約する。	
限界［limitation］	19	潜在的なバイアスや精度の問題を考慮して，研究の限界を議論する。潜在的バイアスの方向性と大きさを議論する。	
解釈［interpretation］	20	目的，限界，解析の多重性［multiplicity］，同様の研究で得られた結果やその他の関連するエビデンスを考慮し，慎重で総合的な結果の解釈を記載する。	
一般化可能性［generalisability］	21	研究結果の一般化可能性（外的妥当性［external validity］）を議論する。	
その他の情報［other information］			
研究の財源［funding］	22	研究の資金源，本研究における資金提供者［funder］の役割を示す。該当する場合には，現在の研究の元となる研究［original study］についても同様に示す。	

*曝露群と非曝露群に分けて記述する。

表 2 ～ 4 は，http://www.strobe-statement.org/ に公開された，Erik von Elm, Douglas G. Altman, Matthias Egger, et al., The Strengthening the Reporting of Observational Studies in Epidemiology (STROBE) statement: guidelines for reporting observational studies の日本語訳である．International Commitee of Medical Journal Editors (ICMJE) もこのチェックリストの活用を推奨している．この訳の詳細は，上岡洋晴，中山健夫，津谷喜一郎：EQUATOR Network から得られる質の高い研究報告のための国際ルール③：STROBE: 疫学における観察研究報告のためのルール，薬理と治療 2014; 42: s109-s117 を参照されたい．なお，ライフサイエンス出版から本誌への転載の許可を得た．

Presented by Medical*Online